

【研修会報告】

下記の通り、玉川大学 大学 FD 委員会主催 大学教育力研修を開催しました。

研修会名：平成 29 年度 玉川大学 大学教育力研修（分科会）

アクティブ・ラーニング ワークショップ「授業時間外の学修を促す課題の組み立て方」

日 時：平成 30 年 2 月 22 日 13：30～15：30

会 場：玉川大学 大学教育棟 2014 601 教室

講 師：中井 俊樹先生（愛媛大学 教育・学生支援機構 教授）

参加者数：25 名 ※本学参加者 15 名（役員 0 名、教員 15 名、職員 0 名）、学外参加者 10 名

内 容：(1)授業時間外の学修の重要性を伝える

・グループワーク課題 - 授業時間外の学修時間

(2)授業のシーケンスを検討する

(3)さまざまな授業時間外の学修を取り入れる

・グループワーク課題 - さまざまな学修課題

(4)魅力的な学修課題を与える

・グループワーク課題 - 魅力的な学修課題

(5)授業時間外の学修を支援する

(6)本日の学修のふりかえり

本研修会では、参加者間で学生の授業時間外の学修を促す具体的な課題の組み立て方の共有を行いながら、授業時間外の学修を促す課題の組み立てについて知見を深めました。「学習成果の差は能力差ではなく時間差と考えると、教員の工夫の余地が生まれる（Carol 1963）」という視点から、学生を「勉強ができる学生」や「勉強ができない学生」という視点で区別するのではなく、「学習に時間をかけている学生」と「かけていない学生」として見て課題を提示することが大切だという訴えかけがなされました。また、予習を前提とした授業を展開する方法や学生側が選択できるような課題の提示によって学生の主体的な学びを促す工夫が紹介され、参加した教員たちにとって授業時間外の学修に対する新たな知見をいただく機会となりました。

グループワークでは、教員同士が普段の課題の提示方法について意見交換しながら授業外学修におけるさまざまな課題を共有し、今後の学習課題の組み立てに必要な視点を確認し合うことができました。

今回の研修会は学外からの参加者が全体の 40%を占めていたこともあり、異なる分野の教員同士で話し合うことによって授業時間外の学修について多様な視点に触れることができたという感想が多く見られました。

本研修会を通して、学生に授業時間外の学修を求めるだけでなく、学生が学修するように教員が工夫していくことの有効性を改めて認識することができました。今回の研修を、今後の本学における高等教育の構築に向けた取り組みに活かしていきたいと思えます。

